

北海道特殊学校長会主催「教育相談担当者自主的研修」について

高 嶋 利次郎*

今後の特別支援教育の在り方についての最終報告で示された「地域の特別支援教育のセンター的機能を有する学校へ」の提言を受け、北海道特殊学校長会では、平成15年度、盲・聾・養護学校において特別支援教育に関する教育相談を担当する教員の実践的な指導力及び資質の向上を図ることを目的として、教員の自主的な参加に基づく「教育相談担当者自主的研修」を開催した。本センターでは、この自主的研修の実施に当たり、北海道特殊学校長会からの依頼を受け、研修会における研修内容の計画立案等や講師派遣、会場の提供等の運営全般にわたる支援を行っている。

本研修会は、5月10日(土)に開講し、平成16年2月21日(土)まで、年間9日間にわたる研修を本センターと道内の8会場で実施し、盲・聾・養護学校の教員58名が参加している。通常の授業に支障のないように主に土曜日・日曜日に研修を行うとともに、地方の参加者の負担を軽減するために、センター所員を地方の会場に派遣して心理検査等の講義や教育相談の相談場面の研修を実施した。

1. 教育相談概論(5月中旬 センター会場 58名参加)

「特別支援教育と教育相談」「本道における早期からの教育相談の現状と解決の方策」及び「幼児児童生徒の理解と心理検査の活用」についての講義、「保護者支援と教育相談技法」に関する演習を行った。

2. 心理検査実技(5~6月 センター、釧路、函館、旭川会場 58名参加)

(1) 「遠城寺乳幼児分析的発達検査法, KIDS, 絵画話し発達検査, S-M 社会生活能力検査」「LD 児, ADHD 児, 高機能自閉症児の実態把握と支援の在り方」は全員が実施した。

(2) 「全訂版田研・田中ビネー知能検査」「WISC-III知

能検査」は、どちらかを選択して実施した。

(3) 「新訂自閉児発達障害児教育診断検査心理教育プロフィール・改訂版(PEP-R)」「K-ABC心理・教育アセスメントバッテリー」「ITPA」, 「フロスティック視知覚発達検査」から一つを選択した。

3. 教育相談場面の観察・参加及び研究協議

(1) 巡回教育相談への参加及び研究協議(6月下旬~9月 20名参加)

本センターが道内各地で行う巡回教育相談の相談場面に参加し、次のような研修を行った。

○相談場面の観察とケース検討(道内8会場)

○相談支援の改善・充実及びセンター的機能の充実に関する講義, 「自校の教育相談の現状と課題及び解決の方策」に関する研究協議(道内4会場)

(2) 来所教育相談への参加及び研究協議(7月下旬~2月)

本センターの来所教育相談場面に参加して、次のような研修を行った。

○相談場面の観察とケース検討(37名参加)

○教育相談資料の作成研修(35名参加)

○相談支援の改善・充実及びセンター的機能の充実に関する講義, 相談事例のケース検討(11月下旬 34名参加)

4. 各障害別の相談の進め方に関する講義と関係機関との連携に関するワークショップ(12月初旬 センター会場 57名参加)

視覚, 聴覚・言語, 知的, 肢体不自由・病弱, 情緒障害に応じた相談の進め方に関する講義と「関係機関との連携関係形成のためのワークショップ」を行った。ワークショップでは、参加者が連携していると考えられる関係機関名及び地域におけるセンター的な機能と思われる取組みを整理するとともに、センター的機能のカテゴリー別に課題と改善・充実の具体策を検討した。

* 北海道立特殊教育センター

5. 講演, 研究協議 (2月下旬 センター会場 58名
参加の予定)

「教育相談への期待～保護者から～」の講演と「自
校・地域における教育相談の現状と課題及び解決の方
策」に関する研究協議を実施した。

年間9日にわたる研修に58名の教員が自費で参加
し, 熱心に取り組んでいることは, 本道の盲・聾・養
護学校の教員が, センターの機能の向上を目指した取
り組みを積極的に推進しようとしている意識の高さの
現れと考えることができる。